

1-5野菜の耕作を始める

■ナカル農民組合と協議してピーナッツを植える



土壤改良をかねてピーナッツを植える。
(平成22年4月)



大袋6つを収穫。4袋を販売した。
1袋1000ペソ(平成22年9月)

1-5野菜の耕作を始める

■ 平成24年9月の農園での栽培



クワイの栽培



土壌中の線虫駆除効果のある
マリーゴールドを畑周囲に植える

1-5野菜の耕作を始める

■ 実をつけた野菜類



オクラとナス(右)



2-1 栽培品種について協議する

■ 草の根事業がスタートして第1回目の打合せ

- 地域の自然環境に適した野菜、香辛料として、次の品種があげられた。
 - ①キャベツ、②レタス、
 - ③セロリー、④サヤエンドウ、
 - ⑤インゲン豆、⑥カボチャ、
 - ⑦ピーマン、⑧カリフラワー、
 - ⑨カボチャ、⑩ショウガ、
 - ⑪サツマイモ、⑫ニンニク、
 - ⑬コショウ
- 今後、有機栽培して地場市場及びマニラ市場で販売していくようにする。そのための方策を今後検討する。



ナカル農民組合員とPMで打ち合わせ
(平成21年10月)

2-2作物の生産、出荷計画を立てる

■ 農園の年間作付け、生産計画についての協議



ナカル農民組合は新しい組合員の加入に伴い、組合組織を一新して、これからの自主運営に供え、再スタートを切った。

平成24年9月

2-3果樹の栽培により収穫が見込める

■ 果樹栽培



グヤバノ(左)とランプータン(右)
現在、農園にはカラマンシー31本、ポメロ22本、グアバ3本、
グヤバノ12本、ランプータン35本が順調に生育している。

2-4果物、野菜の品種、価格調査

■ ナカル近郊の市場(インファンタ)

輸入物のりんご、ミカン、キウイフルーツ、地元産のバナナとマンゴに、カラマンシー(下中)とポメロ(右下)も売られている。



ミカンは高価で2つで25ペソ(大)、20ペソ(中)

2-4果物、野菜の価格調査

■ マニラの大型スーパーマーケット

- マニラの大規模なマーケットにはパイナップル、マンゴ、パパイヤなどのフィリピン産の熱帯果実が、多量に販売されていた。また温帯果樹および寒帯果樹として栽培されているリンゴが、アメリカ合衆国から多量に輸入、販売されていた。特にマンゴスチンは高値で販売されていた。
- パイナップルなどの熱帯果実、亜熱帯果実、温帯果実の加工品も多く販売されていた。近年、外国からの加工業社が進出しているとのことであった。

名称	品種	価格 (piso/kg)
マンゴ	アップルマンゴ	86
	地元原種	36
	インディアン	45
	グリーン	73
	Sabine	102
ランブータン	—	48
マンゴスチン	—	300
ドリアン	地元原種	120
キウイフルーツ	イタリア	77
ロンガン	地元原種	98

価格調査:平成21年1月

2-4果物、野菜の価格調査

■ マニラ高級住宅地区レガスビ市場

名称	価格 (ペソ/kg)
きゅうり	70
大根	60
サツマイモ	70
レタス	120
なす	60
ブロッコリー	200
オクラ	20
トマト	80
ポテト (小)	40
ポテト (大)	70
キャベツ (バギオ産)	60
ピーマン	250
カラマンシー	50-60
カボチャ	60
ニンジン	70
キャツサバ	50

平成24年6月

名称	価格 (ペソ/kg)
バナナ	35
パイナップル	60
アボカド	80
ドラゴンフルーツ	150
りんご (ふじ)	15
ポンカン	50
ライチ	300

平成24年6月

この市場でも外国産のライチは最高値で販売されていた。

2-5果樹の試験栽培

■ 高価格で取引される果樹の試験栽培



平成22年に外国産果樹のライチ(左)3本とマンゴスチン(右)3本を試験的に植えている。すべて活着し、自然環境と適応して順調に生育している。

2-5果物、野菜の栽培技術視察

■ フィリピン大学農学部自然栽培研究室を視察



自然栽培実験地では35種類の野菜の育種及び栽培、防虫効果試験が行われていた。フィリピン大学農学部植物育種研究所教授(赤いシャツを着用)とグリーンハウスで記念撮影。視察にはカウンターパートと南ケソン州立大学の学生有志が同行。